

今月の論語

任重くして
道遠し

人間としての一生の任務は極めて重く、そして目的ははるかに遠い。

今月の帰宅放送は、東原岸舎西溪校9年の永田夕佳さんです



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

銘「四十九番 本尊釈迦如来 当村山犬原谷観音 眞者中」
○如来は真理に到達し修行を完成した者を称します。
○施無畏印は畏れなくてよい、与願印は願いをかなえる、という印です。
○銘の四十九番は浄土寺で、現在の愛媛県松山市にあります。

野の仏ギャラリー②
釈迦如来坐像

北多久町大字小侍

光背と坐像と蓮華台が一体化しています。光背には頭光が線彫りされ、頭部に螺髪と隆起した肉髻を刻んでいます。右手を上げ施無畏印の形ですが、親指に中指と人差し指が触れています。左手は下げ与願印の形です。胸元に下衣の裾が見え、その上に僧祇支、袈裟を彫り込んでいます。釈迦は出身部族名に由来し、仏教の開祖です。

連載

教育長コラム

ちよっといい話



「子は社会で育てる」

「ちよっとしたお祭り騒ぎですよ、今」と、語られるその方がお住まいの地域から、何年振りかに学校へ通う子がこの春から一人いたのです。それが嬉しくて、地域を挙げて安全に通えるように準備を整えてくださいました。スクールバスが脱輪しないように、側溝の蓋を市役所から現物支給してもらって蓋をしてくださいました。スクールバスがUターンしやすいように、草も払ってくださいました。「垂れたり倒れたりして、通行の妨げになるような枝とかも、できる限り自分たちで対応しますよ」。

地域のみなさまの「厚意に、目頭が熱くなりました。素晴らしい地域、そして、何と羨ましい子育て環境。その子にとって、近所子どもは自分ひとりかもしれないが、地域のみなさまが、まなざしや声かけで見守ってくださいましょう。

「子は社会で育てる」
地域のみなさまへの感謝を噛みしめた新学期の始まり。ありがとうございます。

教育長 田原優子

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ その足で 土踏むことも出来なくて
今車椅子は夫の一部なり 梶原恵美子
- ◆ もし僕が 全てを失い傷ついて
辿り着くのは君の笑顔だ 野崎隆幸
- ◆ 浮き雲の 千切れ流れて消えゆけり
自然の摂理 無心なるかな 浦野嘉恵
- ◆ 失いし言葉求めてさまよえる
ひとり遊びに時は過ぎゆく 川浪信子
- ◆ 樹影なきをいぶかしむこと歩き回る
遊び場えさ場失くせし小鳥 尾形節子

俳句 《互選》

- ◆ 花疲れ ゆつくりいやす 露天風呂 本村則子
- ◆ 描きかけの 画布に降り来る 紋黄蝶 おおやはな
- ◆ 掌に 落花とまらぬ 風のあり 武富律子
- ◆ 春昼や 空屋となりし 一軒家 中嶋清子
- ◆ 聖廟へ 辿る 山道 桐の花 富樫明美

川柳 《多久川柳会 選者吟》

- ◆ 蛇口から ポツリポツリと 嫁の愚痴 大谷和
- ◆ 伸々と 育てる ママは 褒め上手 高塚ちかこ
- ◆ 雨だれは 母が歌った 子守り歌 田中正春
- ◆ 我まを 遠くで 許す 母心 古賀弘子
- ◆ 就職し 母の便りに 励まされ 猪ノ口昭子